

講義ユニット名	免疫・アレルギー		所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	ひらた しんたろう 平田 信太郎	所属	リウマチ・膠原病科	
講義ユニット コーディネーター	よしだ ゆうすけ 吉田 雄介	所属	リウマチ・膠原病科	
授業方法	講義+演習形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概 要	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、混合性結合組織病、血管炎など膠原病の代表的疾患を主体に、また臨床的に重要な膠原病関連疾患についても概説します。膠原病は多臓器障害をきたす疾患であり、実際の診療においては常に全体像を把握しながら診療することが重要です。発熱、関節痛や皮疹など日常診療でよく遭遇する症状が膠原病を診断するきっかけとなることも多く、また、炎症病態を診る臨床はその応用が広いことを学んでください。			
講義ユニットの 到達目標	自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる。 膠原病、自己免疫疾患、自己炎症性疾患を概説し、その種類を列挙できる。 関節炎をきたす疾患を列挙できる。 膠原病に特徴的な皮疹を説明し、関連する疾患を列挙できる。 関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療を説明できる。 関節リウマチの関節外症状を説明できる。 成人Still病の症候、診断と治療を説明できる。 全身性エリテマトーデス<SLE>の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 全身性エリテマトーデス<SLE>の合併症（神経精神ループス、ループス腎炎）を説明できる。 抗リン脂質抗体症候群の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 全身性強皮症の病態生理、分類、症候、診断及び臓器病変を説明できる。 皮膚筋炎・多発性筋炎の症候、診断、治療及び臓器病変・合併症を説明できる。 混合性結合組織病、Sjögren症候群を概説できる。 全身性血管炎を分類/列挙し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 脊椎関節炎を分類/列挙し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 Behçet病、再発性多発軟骨炎の症候、診断と治療を説明できる。 IgG4関連疾患の症候、診断と治療を説明できる。 主要な全身性アレルギー性疾患の分類と特徴を概説できる。 食物アレルギーの種類、診断と治療を概説できる。			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	「広島大学 医学部医学科のルール」に準拠して取り扱う。 ○出席システム(学生証)にてすべての講義で出席をとることを原則とし、講義中に配布する出席票で出席確認を追加で行うことがある。 ○学生証を紛失または忘れた場合は学生支援室にある講義出席届出票を受け取り、必ず講義前に担当教員に提出する。 ○すべての講義に出席することを単位付与の前提とする。欠席日数が、やむを得ないものを含め3分の1を超えたものは受験資格(本試験、追試験とも)を与えない(医学部細則第 14 条)。 ○遅刻・早退は認めない。講義開始から30分以上経過して出席した場合は欠席扱いとする。 ○出席状況(回数)や学生証読取り状況は自身で把握、確認すること。欠席回数の問い合わせには回答しない。			
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）			
評価法	MCQ形式で試験を行う。本試験における合格基準は60点とする。			
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。			
推奨参考書	リウマチ病学テキスト（第3版）診断と治療社 ハリソン内科学（第5版）メディカル・サイエンス・インターナショナル 内科学（第12版）朝倉書店 内科学書（第9版）中山書店 内科診断学（第3版）医学書院			